

大湾区情報 No. 38

グレーターベイエリア情報 発行：2022年6月21日



【今号のトピックス】

以下のリンクをクリックすると各記事のトップに移動します。

[【「香港中医医院」着工 「香港スタイル」の漢方臨床サービス確立を目指す】](#)

[【ASEAN 企業の海外上場 香港が第一候補】](#)

[【ハイエンド・シンクタンクが「海」にやってくる 前海拠点の新型シンクタンクに300万円の資金援助】](#)

[【「香港中医医院」着工 香港スタイルの漢方臨床サービス確立を目指す】](#)



6月2日、香港中医医院と香港政府の中医薬検査センターの起工式が行われ、香港の中医薬発展における新たな一步を踏み出しました。この2つのプロジェクトは2025年に完成予定で、段階的にサービスが提供される予定です。

香港中医医院と香港政府中医薬検査センターは、九龍半島東部に位置する將軍澳 (Tseung Kwan O) の百勝角 (Pak Shing Kok) に位置し、それぞれ 4.29 ヘクタールと 1.72 ヘクタールの敷地となっています。香港中医医院は、香港で初めて「モジュール工法」を採用した多層階病院プロジェクトです。

起工式は、オフラインとオンライン両方のハイブリッド形式にて行われました。香港特別行政区行政長官のキャリー・ラム氏、食品及衛生局局長のソフィア・チャン氏、並びにその他の来賓がプロジェクトサイトでの起工式を執り行いました。国家衛生健康委員会、国家薬品监督管理局、広東省衛生健康委員会、広東省薬品监督管理局、マカオ特別行政区政府衛生局局長などの関係者は、オンラインにて参加し祝福を送りました。

キャリー・ラム氏は、この重要なプラットフォームと、香港中医医院と中国本土および海外の中医薬機関との今後の協力関係により、「香港スタイル」の中医学臨床サービスの確立と国際舞台での中医薬サービスの推進が可能になると考えていると述べました。

香港中医医院は、香港特別行政区政府の委託を受け、香港バプティスト大学が官民パートナーシップモデルの下で運営し、香港における中医学の旗艦機関および応用・実用者として発展することを目指し、香港の中医薬サービス、教育・トレーニング、イノベーションおよび科学研究の発展を促進していきます。この病院では、入院および外来治療を含む純中国医学、中国医学を主体とする臨床サービス、中国医学と西洋医学の協力による臨床サービスを提供する予定です。

香港衛生署管轄の中医薬検査センターは、国際的に認められた中医薬品の安全性、品質、検査方法に関する基準規格を先進技術を以て研究・開発する役割を担っています。同センターは、今後も中国医薬品の標準化と国際化を推進し、技術移転を通じて品質管理を強化し、香港の中医薬品のブランドイメージを高め、香港を中国医薬品の検査と品質管理の国際センターとして確立していきます。

【ASEAN 企業の海外上場 香港が第一候補】



今年1月1日に地域包括的経済連携協定（RCEP）が発効し、域内の経済統合が進むにつれ、アジアにおけるプロジェクト、特に中国本土にあるASEAN企業プロジェクトやASEAN地域にある中国本土企業プロジェクトへの資金需要が高まっており、香港は企業の双方向の資金需要に対応する理想的なプラットフォームを提供できるポジションにあると言えます。

効率的かつ柔軟な資金調達のための多様な金融市場

香港貿易発展局が中国建設銀行系列のCCBインターナショナルと共同で実施した調査レポートによると、香港はASEAN企業の海外上場に理想的なロケーションであるとされています。現在、香港証券取引所には、ASEAN地域に本社を置く80社以上の企業が上場しており、非ASEANの株式市場に上場している企業としては最多となっています。これらの香港上場ASEAN企業は、非必需消費財、不動産・建設、情報技術、工業など幅広い分野をカバーしており、時価総額は153億米ドルに達しています。つまり、香港はあらゆる分野と規模のASEAN企業にとって最も人気のある海外上場先となっています。

当レポートでは、香港が ASEAN 企業にとって魅力的である要因として、多様な活気のある金融市場、海外投資資金調達プロジェクトのための効率的で柔軟な専門サービス、多様な金融・戦略投資家コミュニティへの容易なアクセス、大湾区と中国本土との架け橋、強力な監督管理システム、ASEAN 各国とのタイムゾーンに近いといった利便性を挙げています。

今後いっそう ASEAN 企業のニーズを満たし、同時に企業の海外上場センターとしての香港の地位を高めるために、香港は ASEAN 諸国でのプロモーションを強化し、現地企業の香港に対する認識を高めるべきであるという調査回答者からのアドバイスもありました。実際、一部の ASEAN 企業にとっては、香港の上場制度や関連政策の最新動向をより理解する必要があることは明らかです。

プロモーションの強化 ASEAN・中国本土を繋ぐ

調査レポートの回答者によりますと、消費財及び関連サービス、鉱業・商品、不動産投資信託 (REIT) などの主要セクターに加え、バイオテクノロジー、ハイテク企業、フィンテックなど、急成長する新興セクターも ASEAN 地域で有望であり、また、環境・社会・企業統治 (ESG) 投資要素は東南アジアでますます重要となって来ています。

回答者は、海外発行体の上場制度の強化、新設の SPAC (Special Purpose Acquisition Company) の上場制度、REIT に対する上場優遇措置を通じて、香港が ASEAN の主要・新興セクターの第一の上場先としての地位をさらに強化できると考えています。また、香港は、ASEAN グループからの ESG 投資資金に対する需要の高まりに応えることができる有利なポジションにあります。

ASEAN 各国家と中国本土との重要なハブとして、香港はまた、ASEAN 各地の証券取引所との協力関係を強化することにより、ASEAN 企業の香港での重複上場、または二次上場を促進し、すべての当事者が持続的な成長機会をより効果的にとらえることができるようになります。

また当レポートはマレーシア企業の海外上場の状況についても取り上げています。ASEAN 以外の主要な証券取引所の中で、マレーシア企業の上場数が最も多いのは香港です。マレーシア企業は、香港を中国への重要な踏み台と考えてお

り、現地経済の成長と地域経済のさらなる統合により、急成長する情報技術分野や新興企業は、新しい SPAC の上場制度を通じて、将来的に香港証券取引所に上場する可能性があります。

【ハイエンド・シンクタンクが「海」にやってくる 前海拠点の新型シンクタンクに 300 万元の資金援助】



新タイプのシンクタンクは、しばしば「最強の頭脳」と称されます。国家戦略プラットフォームとして、「中国的特色を持つ新タイプのシンクタンクを發展させ、広東省、香港、マカオの研究基地を建設する」ことは、「前海深圳－香港現代サービス産業協力区改革開放全面深化計画」（以下「前海計画」）において「大前海」に与えられた新しい使命となっています。

前海におけるシンクタンクの發展を加速させるため、深圳市前海管理局は「深圳市前海－香港現代サービス産業協力区中国的特色を持つ新型シンクタンク發展支援暫定措置」（以下「措置」）を正式に發表し、前海における入居、發展、人材誘致などの多分野においてシンクタンクの發展を支援し、適格シンクタンクには、入居時に運営資金として 300 万人民元の支援を提供することになりました。

現在、ハイエンド・シンクタンク・クラスタは、前海で推進の香港・深圳協力の主要プラットフォームの一つで、前海には香港中文大学（深圳）の前海国際事務研究所と深圳データ経済研究所が入居し、深圳中国特色社会主義デモンストレーション・ゾーン建設研究センターと前海イノベーション研究所などの研究機関が前海で運営され、またボストン・コンサルティング・グループ、デロイト、EY、PWC、KPMG コンサルティング・サービスなど国際的に有名なコンサルティング会社も前海で活動していることが具体化してきています。

香港・マカオからハイエンド・シンクタンクを誘致

支援誘致の一般的な方向性として、同措置では「国家戦略、香港・深圳協力、国際資源」に重点を置いています。

まず、国家レベルのハイエンド・シンクタンク構築のためのパイロット企業を主な誘致対象として、前海に物理的な支部を設置することを奨励し、政治的助言、理論的革新、文化コミュニケーション、世論誘導、社会サービス、国際コミュニケーションなどの分野で知識に貢献します。

第二に、香港やマカオなど、より高い専門性と開放性を持つシンクタンクを前海に誘致することで、実務経験を総括し、関連制度や政策の改善をするとともに、「一国二制度」などの政策を深く説明し、深圳と香港の統合発展をさらに促進させることを期待しています。

さらに、シンクタンクに影響力のあるフォーラム、学術会議、セミナーなどを開催し、中国的特色を持つ新タイプのシンクタンクがパブリック・ディプロマシー（公共外交）および文化間の総合学習において重要な役割を十分に発揮し、前海の影響力を高めることが奨励されています。

したがって、同措置が支援するシンクタンクの種類は、主に「国家ハイエンド・シンクタンク建設のための試行企業またはその支部」「香港・マカオでの著名ソーシャルシンクタンク、香港・マカオの大学またはそれらの深圳での共同運営の大学が組織するシンクタンク」「その他の広東・香港・マカオ研究基地建設および文化ソフトパワー基地の拠点として前海協力区にとって大きな意義を持

ち、中国的特色のある新タイプのシンクタンクの発展ニーズに合致しているシンクタンク」の3つとなっています。

シンクタンクは「独立した法人またはシンクタンクの所轄部門が認めた機関であり、5人以上の教授（研究者）または同等の肩書きを持つ専門家からなる常駐研究チーム」であれば、サポートを申請することができます。

4つの主要な研究分野に焦点を当てる

前海の位置づけに沿って、同措置では入居する新しいシンクタンクに対し、以下の4分野の研究機関を新設し、これらの分野のうち少なくとも1分野において優れた研究能力を有していることが必要であるとしています。

- 1) 金融、展示会、貿易・物流、テクノロジー・サービス、専門サービス、新国際貿易、現代海洋、デジタル、ファッションなどの現代サービス産業に関する研究
- 2) ビジネス環境、都市建設、公共サービス、地域統治に関する研究
- 3) 香港・深圳協力、自由貿易区の建設、大湾区、深圳中国の特色ある社会主義先行示範区建設研究
- 4) 党の建設に関する研究

条件を満たせば、前海に入居後の起業資金として300万人民元の支援を受けることができます。一方、オフィススペースに関しては、公的機関の組織形態のシンクタンクは、前海管理局の国家機関・公的機関のオフィススペース管理に関する関連措置を参照することができ、社会組織、社会サービス機関、財団法人形態のシンクタンクは、管理局の産業用スペース管理に関する措置を参照することができます。

前海のシンクタンクは、「前海計画」を中心に、香港・マカオとの規則・制度のコンバージェンスを強化することを目的とし、政治的助言、政策革新、知識の共有、人材確保、対外発信を積極的に行うべきとされています。

【参考資料】

- ・ [「香港中医医院」着工 「香港スタイル」の漢方臨床サービス確立を目指す](#)
- ・ [ASEAN 企業の海外上場 香港が第一候補 \(HKET 2022 年 6 月 10 日\)](#)
- ・ [ハイエンド・シンクタンクが「海」にやってくる 前海拠点の新型シンクタンクに 300 万元の資金援助](#)